



フクシマの子どもの未来を守る家

ニュース No. 39 15/05/27 発行

☆ 今月の活動 ☆

* 赤川河川敷で遊ぶ会

良いお天気に恵まれた5月4日、赤川河川敷で元気いっぱい遊び、BBQでお腹いっぱいご飯を食べました。

河川敷では、大人も子どもも関係なくサッカーや鬼ごっこ。お母さんがたは木陰でおにぎりをにぎったり、野菜を切ったり、BBQの準備をしてくださいました。

きれいな青空のもとで、みんな気持ちよくのびのびと遊びました。たくさんの方々にご参加いただき、とても楽しくにぎやかな1日となりました。

☆原発避難者の住宅支援を打ち切らないで！署名を集めましょう！（5月末締め切り）



* 「井岡ハウス」についてのご報告 *

2年間お貸しいただいた「井岡ハウス」。先日片付けや荷物の搬出も終わり、無事に家主さんにお返ししました。片付けや掃除にご協力いただいたサポーターさん、ありがとうございました！

☆ 今後の予定 ☆

- 5月27日(水)：サポーター会議
19:00～上畑ハウスにて
 - 6月7日(日)：守る家第四総会 14時～16時半
こびあ二階和室にて
- ※サポーターさんはお集まりください。



うらへ続く！⇒

☆ドキュメンタリー映画「放射線を浴びたX年後」をみて。☆

◆二つのことを思いました。一つ目は、「国を相手に相撲をしても勝てない」という趣旨の言葉。このことに限らず、色んな場面でこのことは思うことは多い…考えれば考えるほどわからなくなります。

もうひとつは、「50年以上が経って、被害者が死をもって事実がやっと証明される」ということ。では2011年3月の福島・日本の事実は、痛みは、いつ明らかになるのでしょうか？そんな時間が経過してから、そんなに犠牲者が現われてからわかったって、何になるのでしょうか。困ります！

◆時間が経つと解決はより困難になるのに、時間が経たないと実証できないというジレンマ。「いつの時代にも弱い者にしわ寄せがくる」という言葉が突き刺さりました。

◆やはり何年経っても放射能の影響は、色濃く残っている映像を観ました。フクシマの原発問題も風化しつつあるなか、多くの方に悲惨な現状を語り継いでいく必要性を感じました。そして高知の先生が取り組んでいたように、多くの人達に被ばくの恐ろしさを知らせ、今後もこの映画を広めていきたいし、これからも「守る家」の活動を続けて行きたいと思いました。

お問い合わせ先：080-6023-7490 (守る家事務局)